エンパワーメント・エバリュエーション

日本に向けて

デービット・M・フェッターマン博士

エンパワーメント評価
ウェッブ・ページ

- 支部メンバー
- ニュースレター
- セルフ・アセスメント実施のための、フリー・ソフトウェア及び
  ウェッブ・リンク
- 書評
- ＵＲＬ

www.stanford.edu/~davidf/empowermentevaluation.html

過去25年間における評価の変化

その傾向

精密性	→	有用性
傍観型	→	参加型
学術志向	→	クライアント志向

付加すべき歴史的背景

- ジョンソン政権
  - 貧困との戦争
  - 社会福祉政策
  - 評価

比較＆対立

従来	エンパワーメント
外的	内的
専門家	コーチまたは クリティカルな友人
依存性	自己決定とキャパシティービルディング
独自判断	協働性

エンパワーメント評価の3段階

1．ミッションの確立
2．テイキング・ストック
3．将来のための計画

ミッションの確立

- ミッション・ステートメント作成へ
- グループ・メンバー間の価値観の共有
- 民主的なプロセス
- 意見の表出とすり合わせ

テイキング・ストック
パートⅠ

- 活動内容をリストアップする
- 優先順位をつける(●　にて)

活動内容	● による優先順位
コミュニケーション	●●●●
製品開発	●●●●●●●
資金調達	●●●

テイキングストック
パートⅡ

- 評価1(最も低い)－10(最も高い)
- ダイアローグ

活動内容	ＤＦ	ＤＥ	ＳＥＣ	平均
コミュニケーション	3	6	3	4
指導	4	5	9	6
資金供給	5	2	1	2.67
製品開発	1	8	4	4.33
平均	3.25	5.25	4.25	

将来に向けた計画

- 目標
- 戦略
- 達成を測るための指標

2回目のテイキング・ストック

- テイキング・ストックによってベースラインを明らかにする
- 将来にむけた計画によって活動内容を明らかにする
- 中間評価－フィードバック・ループ－中途修正
- 2回目のテイキング・ストック－これまでの変化をグループで検討する

エンパワーメント評価の原則

1．　改善に結びつける（Improvement)

2．　当事者主権(Community Ownership)

3．　インクルージョン(Inclusion)

4．　民主的な参加を保障する(Democratic Participation)

5．　社会的公正さ(Social Justice)

エンパワーメント評価の原則

6．当事者の知（Community Knowledge）

7．実証的戦略を立てる（Evidence-based Strategies)

8．キャパシティビルデング(Capacity Building)

9．組織内に定着させる（Organizational Learning)

10．説明責任(Accountability)

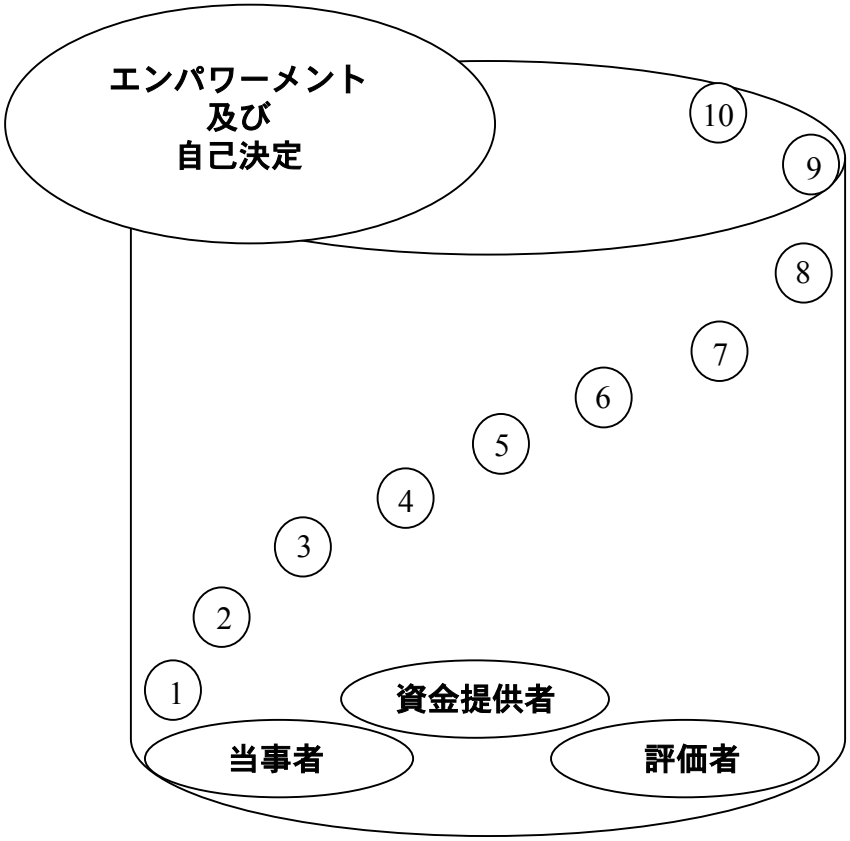
三者間パートナーシップ

- 当事者
- 評価者
- 資金提供者

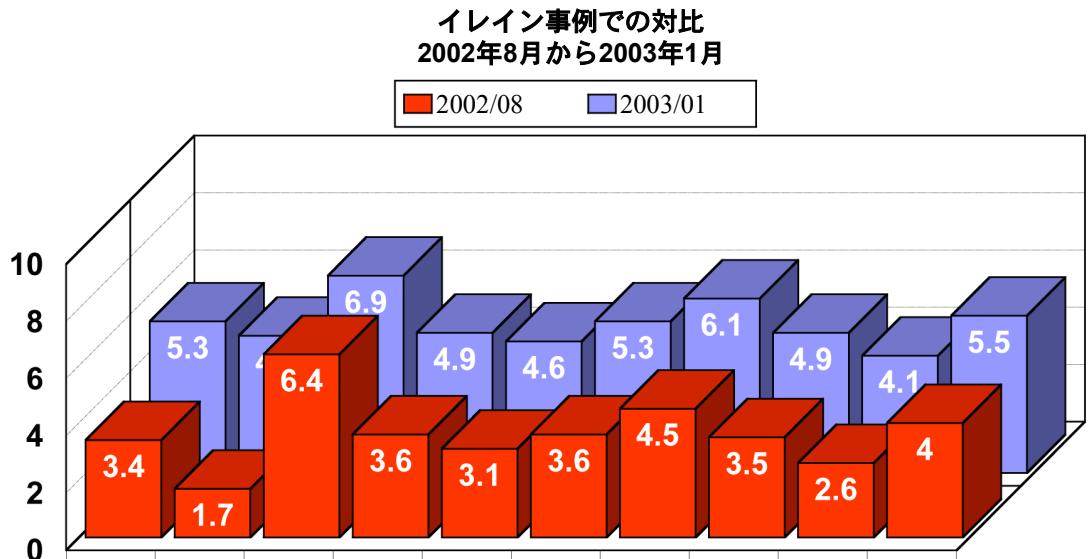
エンパワーメント評価のダイナミズム

- 当事者、資金提供者、評価者が10の原則に基づき協働することにより、エンパワーメントと自己決定能力の度合いが高まる。

エンパワーメント評価の視覚化



イレイン事例

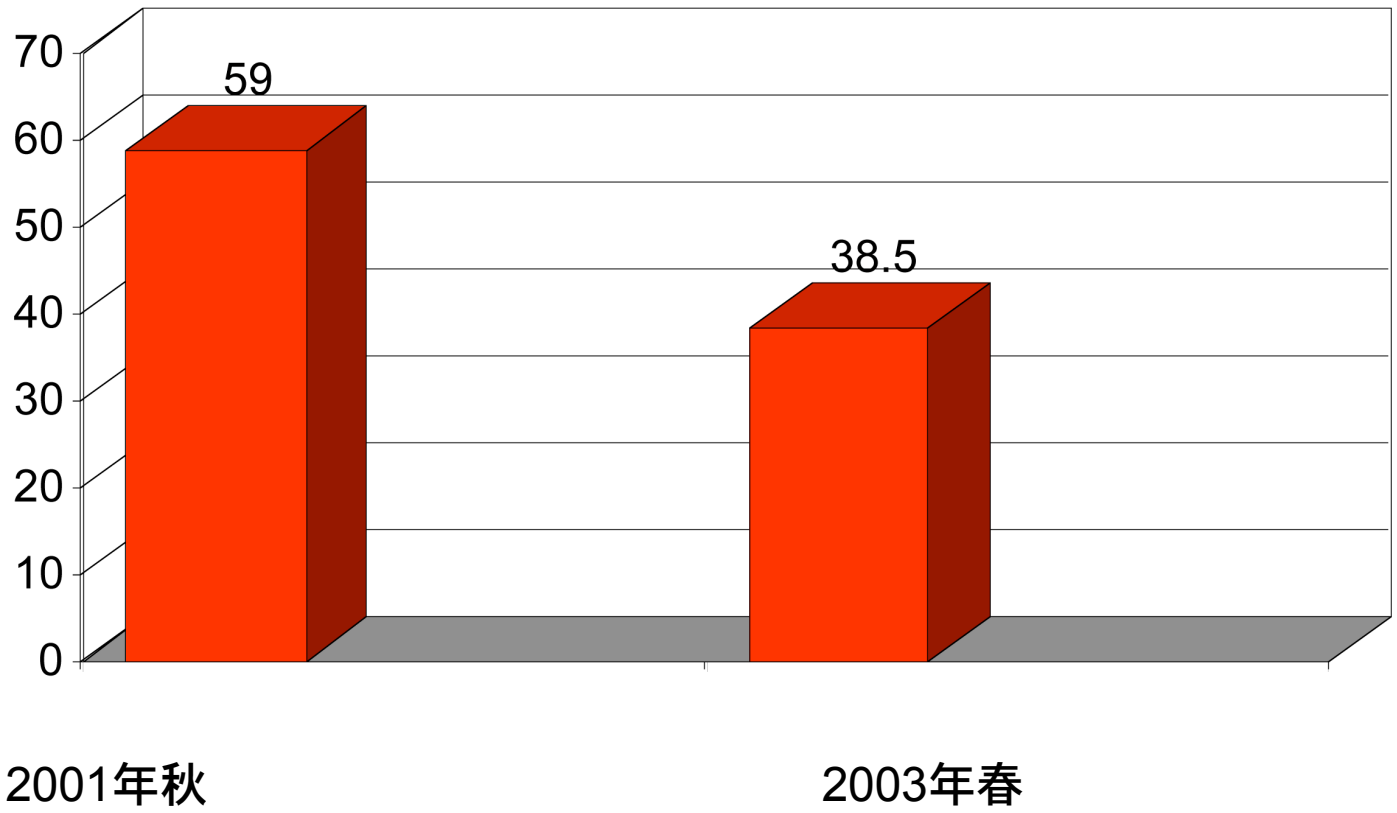


	しつけ	保護者参加	授業	教養	学内コミュニケーション	学外コミュニケーション	モデル行動	生徒会	地域参加	社会資源
2002/08	3.4	1.7	6.4	3.6	3.1	3.6	4.5	3.5	2.6	4
2003/01	5.3	4.8	6.9	4.9	4.6	5.3	6.1	4.9	4.1	5.5

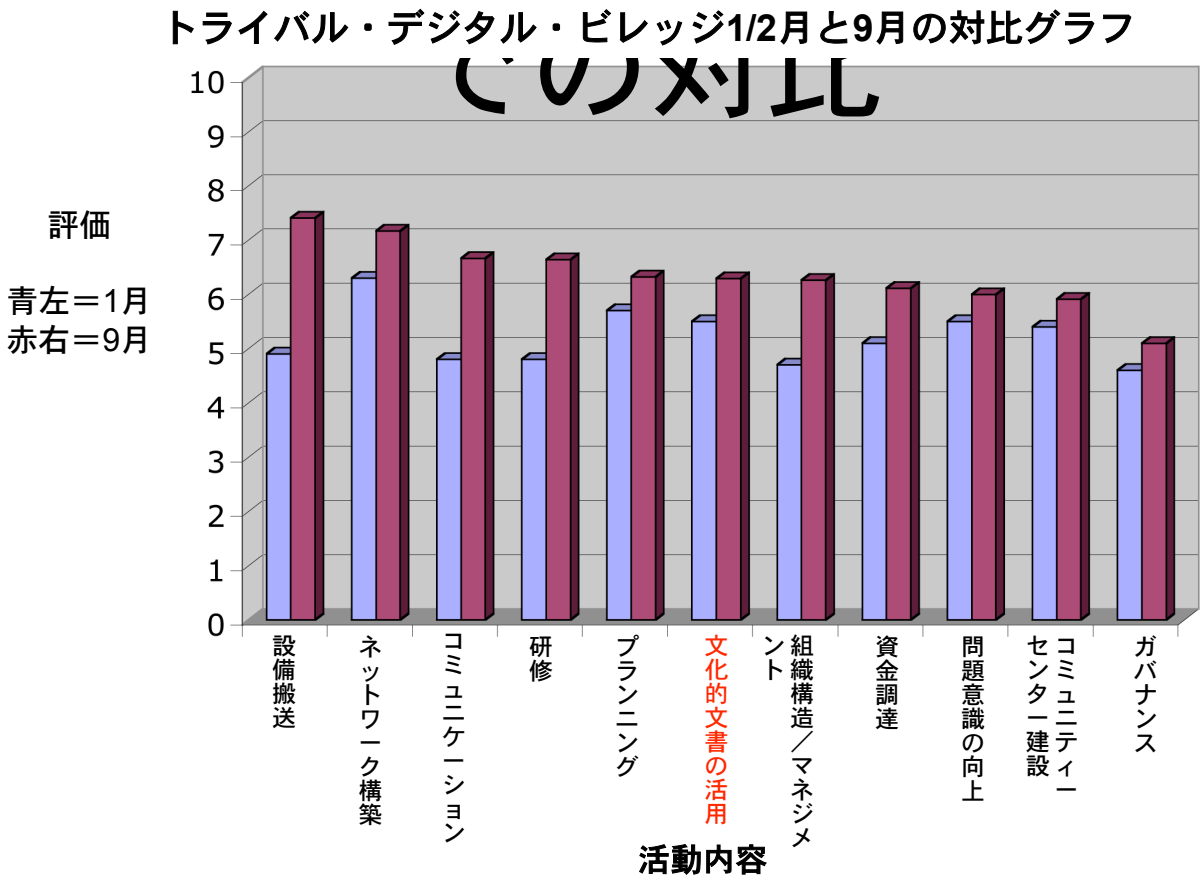
アーカンソー・デルタ地帯

イレイン学区

成績下位者の減少



トライバル・デジタル・ビレッジ



ヒューレット・パッカード
15億・デジタル・ビレッジ・

まとめ

改善にこそ焦点がある

- ミッションの確立
  どのような価値と何にピントを合わせるかを明らかにする
- テイキングストック
  現状把握
- 将来のための計画
  アクションの青写真
  変化のモニタリング
- 2回目のテイキング・ストック－フィードバック・ループ
- 二次データ地点－グループ及び組織的学習

エンパワーメント評価

タイムフレーム

- ミッションの確立

  1～２時間

- テイキング・ストック

  ２～3時間

- 将来のための計画

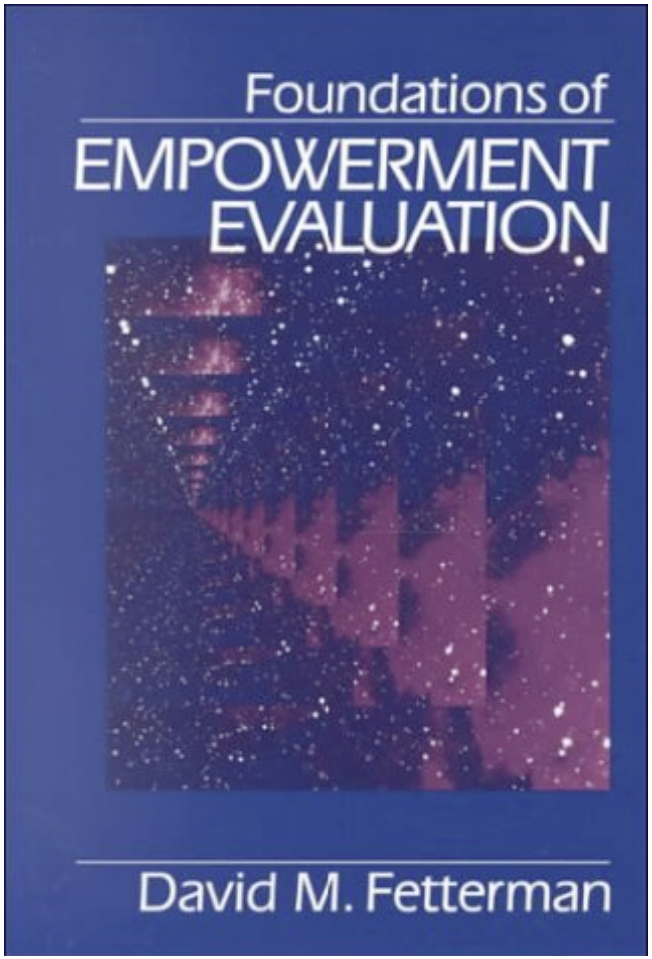
  ２～3時間　その後幾度かミーティングを開く

- 2回目のテイキングストック－インタビュー、アンケート
- 二次データ地点－二回目の調査・検討

エンパワーメント評価実施のステップ

- ミッションの確立
  ワークショップ、コンセンサスのための時間、必要に応じた再訪問
- テイキングストック
  ワークショップ、コンセンサス及び討議のための時間、再訪問
- 将来のための計画
  ワークショップ、ミーティングの追加、ミーティングを定例化する、
  継続的に再訪問する（組織の中の定着していく）
- 2回目のテイキング・ストック－インタビュー、アンケート、
  その他
- 二次データ地点－二回目の調査・検討セッション

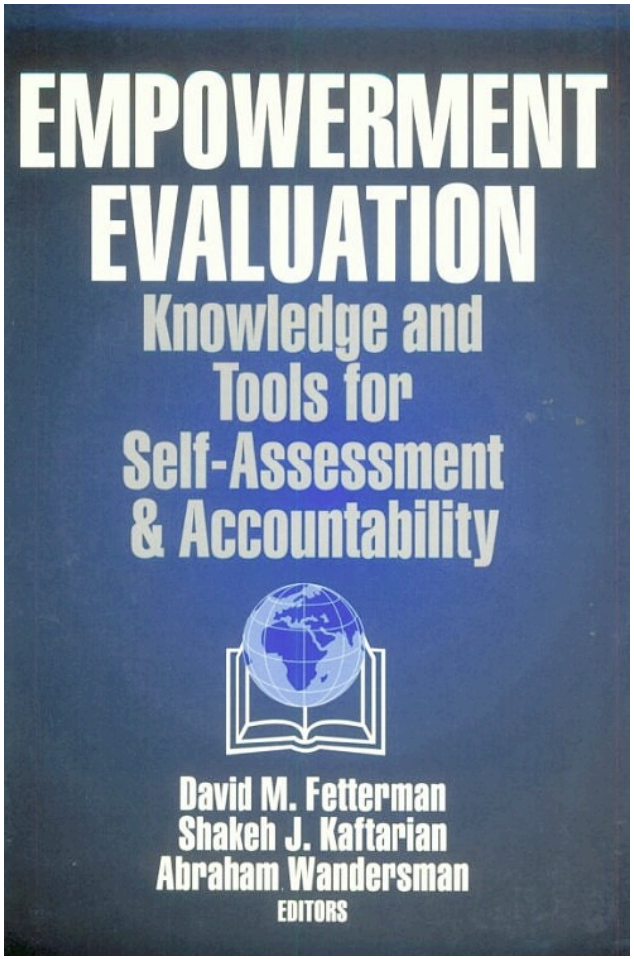
エンパワーメント参考図書



エンパワーメント評価の
基礎

デービット・M・フェッターマン

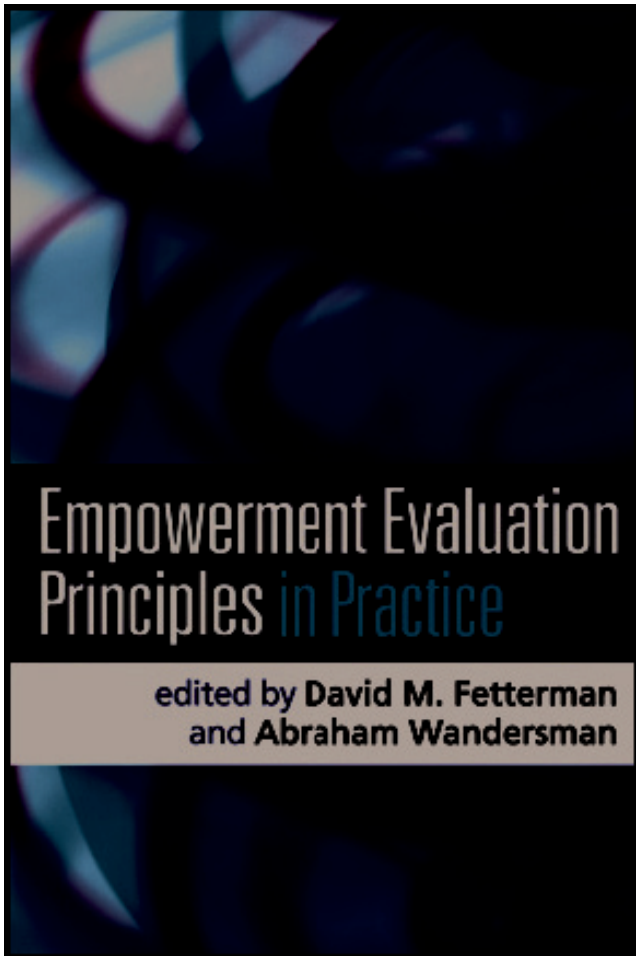
エンパワーメント参考図書



エンパワーメント評価：
セルフ・アセスメント＆アカウンタビリティーのための知識とツール

デービット・Ｍ・フェッターマン
シェイカー・Ｊ・カフタリアン
アブラハム・ワンダースマン

エンパワーメント参考図書



エンパワーメント評価
実践原理

デービット・M・フェッターマン
アブラハム・ワンダースマン

エンパワーメント評価参考書

- D.M.フェッターマン、A.ワンダースマン(2004年)
  「エンパワーメント評価実践原理」
  ギルフォード出版、ニューヨーク
- D.M.フェッターマン(2001年)
  「エンパワーメント評価」
  サウザント・オークス、カリフォルニア：セージ出版
- D.M.フェッターマン、S.カフタリアン、A.ワンダースマン(1996年)
  「エンパワーメント評価：セルフ・アセスメント＆アカウンタビリティのための知識とツール」
  サウザント・オークス、カリフォルニア：セージ出版

エンパワーメント評価
日本国文部科学省

エンパワーメント評価
日本にて

フェッターマン＆アソシエイツ

デービッド・フェッターマン
博士

オフィス番号：(650) 269-5689

携帯番号：650-269-5689
profdavidf@yahoo.com

スタンフォード大学
教育学部
デービッド・フェッターマン博士

デービッド・Ｍ・フェッターマン博士は、スタンフォード大学教育学部の教授であり、同学部の評価事務局、キャリア開発事務局、同窓会事務局の部長です。また、スタンフォード大学医学部のメンバーでもあります。過去10年間においては、教育学部の修士学政策分析会および評価プログラムの部長であり、それ以前は、カリフォルニア・インスティテュート・オブ・インテグラル・スタディーズの教授及び研究部長、米国調査研究所の主任研究員、ＲＭＣリサーチ社の首席助手及びプロジェクト部長を務めていました。フェッターマン博士は、スタンフォード大学で教育・医学民族学の博士号を得た後、イスラエル（キブツに居住）及び米国（国内全域の都市部貧困層を中心とする）双方において、フィールドワークを行ってきました。教育評価学、民族学、政策分析学、教育テクノロジーの分野で研究を重ねており、落ちこぼれ及び天才児教育のプログラムに研究の焦点をあてています。

また、米国評価協会及び米国人類学協会の人類学・教育学委員会の前代表であります。また、現在は同団体においてプログラム議長として活躍を続けています。

(続く)

フェッターマン博士は、地方自治体レベル及び全国レベルで、広範囲に多現場で評価研究を行っています。その多現場研究は基本的に都市部で行われています。博士は米国教育・科学省の要請を受け、落ちこぼれ児童生徒プログラムの3ヵ年全国評価を行いました。また、移民、バイリンガル、及び障害児向けの教育プログラムの研究も行っています。サンフランシスコ大学及びカリフォルニア大学バークレー校には、複数回にわたって評価を行い、スタンフォード大学の理事会へはさらにさまざまな評価を行っています。その中に含まれるものには、スタンフォード線形加速器センター、スタンフォード大学病院医局、医学部、図書館、及びその他さまざまな学部及び事務局があります。また、大学総長の依頼を受け、スタンフォード教員教育プログラムを評価しました。

フェッターマン博士は、都市部貧困層の高校、ユダヤ人学校二校、そして数々の大学現場で教鞭をとってきました。また、反貧困プログラムの部長を務めたこともあります。民族学および民族学的評価の発展のために貢献してきたことが認められている博士ですが、最近では、人々の自助努力のためのエンパワーメント評価を発展させることに焦点を当て、米国全域と南アフリカでこのアプローチを用いています。エンパワーメント評価が行われた団体には次のものがあります：マリン・コミュニティー財団による健康回復プログラム、ヒューレット財団・ワン・東パロ・アルト共同体再活性化プロジェクト（ 500万ドル規模）、アルコール・薬物依存イリノイ州事務局、イリノイ州生活サービス部精神健康事務所、ルシール・パッカード子供病院、ネイティブ・アメリカン部族グループ・イニシャティブ、ミシガン州部族間協議会、ケンブリッジ大学、カリフォルニア・インスティテュート・オブ・インテグラル・スタディーズ（認可のため）、 ヒューレット・パッカード慈善事業デジタル・ビレッジ（1500万ドル規模）。

(続く)

フェッターマン博士は、米国人類学協会と応用人類学学会のフェローに選出されています。また評価理論の卓越した貢献に対してポール・レイザーズフェルド賞を、そして評価実践の度重なる貢献に対して米国評価協会の最高の栄誉であるマイアダル賞を受賞しています。そして、学者及び実践者としての教育人類学への卓越した貢献が認められ、ジョージ・アンド・ルイーズ・スピンドラー賞を、また人類学・教育学評議会より民族学評価賞を受賞しました。
また、民族学的教育評価への貢献が認められ、評価研究評議会から議長賞を受賞しました。さらに自身の知識を行動に変えたことに対し、ワシントン実践人類学協会のプラクシス出版賞を受賞しています。

博士は、地方レベル、全国レベル、国際レベルにて、天才児教育分野での研究を行っています。第一回、第二回の天才児教育会議をスタンフォード大学にて開催し運営しました。
フェッターマン博士にはその卓越性に対し、1990年度メンサ教育研究財団賞のひとつが与えられました。メンサ教育研究財団は、知能の特性、特徴、活用の研究を奨励する団体で、その賞は、フェッターマン博士の著作である「卓越性と均等性：天才児教育へ異質の観点を」、及び学会誌「教育評価と政策分析」「国際天才児教育」への天才児教育関係の論文に対して与えられました。

フェッターマン博士は、米国教育・科学省の要請を受け、天才児のための全国センターを選ぶ際の委員も務めました。選ばれたのは博士の著書である「卓越性と均等性」にて全国センターの設立を提唱したことがきっかけです。そのセンターは現在すでに開設され、フェッターマン博士は、センターのコンサルタント・バンクの一員であり、国立天才児研究センターにて助言をしています。また、天才児童生徒のための先進的学校であるヌーバ・スクールの理事も務めています。

(続く)

フェッターマン博士は、スタンフォード大学のオンラインPh.Dプログラムのため、また教室授業の補完を目的に、7年以上にわたりオンライン授業を行っています。博士は、「教育研究者」から「実践人類学」までのさまざまな学会誌に、オンライン授業とインターネットによるテレビ会議について論文を書き続けています。また、共同的・参加型エンパワーメント評価のために、米国評価協会のディビジョン・リストサーブを管理しています。米国教育研究協会の電気通信委員に任命され、この分野においても助言をしています。

博士は、数多くの国家機関、財団、企業、そして学術研究所へコンサルトを行ってきました。その中には次の団体が含まれます：米国教育・科学省、国立精神保健研究所、疫病管理センター、米国農務省、W.K.ケロッグ財団、ロックフェラー財団、ウォルター・Ｓ・ジョンソン財団、アニー・Ｅ・ケーシー財団、マリン・コミュニティー財団、ヒューレット財団、ヒューレット・パッカード慈善事業、ナイト財団、アーカンソー州教育局、シンテックス、南アフリカ独立開発トラスト、フル・インクルージョンのための幼児研究所、全米・ヨーロッパの数多くの大学、等。また、日本の文部科学省のような外国機関や省庁にもコンサルタントを行っています。

フェッターマン博士は、ガーランド・テイラー・アンド・フランシス出版研究所の「教育と文化研究シリーズ」の編集長です。また、「国際教育事典」「人間知能事典」「社会科学調査方法事典」など、事典の出版に際しても多くの貢献をしています。著作には、「エンパワーメント評価実践原理」「エンパワーメント評価の基礎」「エンパワーメント評価：セルフ・アセスメント＆アカウンタビリティーのための知識とツール」「力の言語で話す：コミュニケーションと協力と弁護」「民族学：ステップ・バイ・ステップ(第二版)」「質の高いアプローチを教育における評価へ：沈黙の科学的革命」「卓越性と均等性：天才児教育へ異質の観点を」「教育評価：民族学の理論、実践、政策」「教育評価における民族学」があります。